

「功名が辻」と「内助の功」

VOL.23

NHKの大河ドラマ「功名が辻」が始まって、三カ月。主人公は、山内一豊と妻・千代。昭和三十八年の第一作から現在までの通算四十五作品のうち、女性主人公の物語は、平成十四年「利家とまつ」以来、今回で七作品目です。

「内助の功」で有名な千代は、ドラマの中で「よく寝、よく食べ、よく笑う」明るい性格と機転で、家来二人の下積み時代から夫を支え、ついには山内家を土佐二十四万石まで盛り立てます。

一方、長浜、京、大坂など、住まいを転々と（転勤）しながら、主に仕える姿を現代のサラリーマンに例えられる一豊。不器用で、誠実さ以外大した取りえも無い彼が信長、秀吉、家康と主を替え、苦しみながらも戦国の世を生き抜く姿は、現代社会を生きるわれわれにも多くの共感を呼びます。

「内助の功」とは、夫の外部での働きを支える妻の功績をいうようですが、実際の二人の関係はどうだったのでしょうか。二人の間に子どもは無く、大名になっても生涯千代ただ一人を愛した一豊は同僚から、その堅物さを何度モからかわれたそうです。「男が主、女が従」という時代背景のなかで、二人は互いに信頼し、協力し合い、自分にできることを精一杯出し切り、生き抜いたのです。夫婦間の役割は、互いの話し合いと理解で決めればよいものではないでしょうか。

過去の大河ドラマ・女性主人公

放映年	主演女優	番組名
昭和42年	岡田茉莉子	三姉妹
昭和56年	佐久間良子	おんな太閤記
昭和60年	松坂 慶子	春の波濤
昭和61年	三田 佳子	いのち
平成元年	大原 麗子	春日局
平成6年	三田 佳子	花の乱
平成14年	松嶋菜々子	利家とまつ



泉中学校

2学期制を生かして



熱かった「体育大会」

本校は平成十七年度から、二学期制による学校生活を始めました。この二学期制というのは、一年を前期・後期という二つの学期に分けて生活するというものです。

二学期制に変えたのは、大きく次のような利点があると考えたからです。

- ・授業時間数が増え、ゆとりを持って確実な学習ができる
- ・生徒会活動と時期が合い、前期：体育大会 後期：合唱祭など行事の目玉もはつきりする
- ・夏の市大会前に部活動へ力が入られる
- ・懇談の機会を増やすことができる

十七年度の体育大会では、団演技に感動しました。三年生が夏休み前からどんな演技にするか考え始め、休み中に練習をし、休み明けに下級生に教えるのです。教え方もうまく

授業に向かう積極的な姿勢、真剣な掃除姿勢、明るいあいさつ、部活動やクラブの大会での入賞、文化系のコンクールや大会での受賞など、生徒たちの努力の成果が表れてきています。すべてが二学期制にかかわっているとはいえませんが、本校は変わりつつあります。

はつきりした目玉（目的）の設定と練習時間の確保ができ、二学期制の良さが生かされたのではないかと思います。



学級の響き「合唱祭」

まとまりのある動きと迫力ある演技。楽しい演技を見せてくれました。

また、合唱祭では学級づくりの姿を合唱で表すという姿勢で取り組み、どの学級も心が伝わる美しく響いた合唱を披露してくれました。